

# あげ・こげ・じげじまん

## 第4回 黒坂のまちあれやこれや

江戸時代はじめから城下町として栄えた黒坂。

商業・産業が盛んだった当時を知る

長尾已幸さん（黒坂）のお話を、

懐かしい写真を交えながら紹介します。



思い出を語る長尾已幸さん

長尾さんはおいくつですか  
大正4年生まれ、今94歳です。生まれも育ちも黒坂。家が酒屋を始めたのは両親の代からで、それ以前は蚕を飼っていたみたいです。日野郡の製糸業の先駆者だった緒方家のあつた黒坂は、昔は養蚕が

盛んだったようですね。

子ども時代は、自分で凧やブチゴマを作つて遊んでいました。祖母からは鶴の池の伝説などの昔話も良く聞いていましたね。

当時の黒坂の様子はどう

でしたか

今とは全然違つてとてもにぎやかでした。芸者さんがいた時代もありましたし、料理屋、呉服屋、映画館に豆腐屋、魚屋、旅館など何でもありました。

黒坂の映画館は「日の出館」といつて、映画のほか、芝居なども興行していました。私の親が株主だったので、経営にも携わっていました。当時は、名前のほかに屋号で呼び合つていましたね。近江屋、山口屋、高野屋、三吉屋など。うちには嶋屋で、今でも店の車に描いてありますよ。

以前はどんな仕事をされていましたか

県立工業学校（現米子工業高校）で応用化学を勉強し、卒業後は広島県の吳にあつた海軍工廠で2年間、飛行機の部品のメッキの仕事をしました。

製鋼所で働かれていたと

聞きましたが

大阪特殊製鋼という会社の黒坂工場が、今の黒坂7区にあり、20代のころそこで働いていました。

工場では、角炉といつ、いわゆる「たら」のような仕組みの炉で砂鉄から鉄を作り、

もう一つの電気炉で鉄を精製

したものを黒坂駅から鉄道で出荷していました。

工場は24時間稼動、昼夜交替勤務で、私は現場監督のような仕事をしていました。



大阪特殊製鋼黒坂分工場の様子を写した貴重な写真。右から二人目が長尾さん

も、私は現場監督のような仕事をしていました。

当時は戦争中で、私も募集されて内地で塹壕掘りをしま



昭和 30 年代の黒坂橋と黒坂の集落。ポンネット型のバスの姿も



昭和 40 年代の黒坂歳末市の様子



## 「じげじまん」の語り手を募集しています

昔の行事や地域のしきたり、  
昔話や田植え唄、わらべ唄などを  
語っていただける人があれば伺います。  
記録は録音して保存します。  
詳しくは町図書館（電話 72-1300）まで  
お問合せください。

した。2年後に除隊してから  
は製鋼所に戻りました。鉄の  
需要が多く、黒坂にもう一つ  
工場を建てる計画もあつたん  
ですが、終戦によって計画も  
なくなり、工場も閉鎖されま  
した。

戦後は何をされていまし

たか

家の酒屋の手伝いをしながら、まきを切つて問屋に卸し  
たりもしていましたね。

でこぼこで通るのに苦労した  
ものです。

いたとか

滝山公園に店を出されて  
いたとか

そうです。昔は滝山への花  
見客が本当に多く、友達と共に  
で公園内に小屋を建て、酒  
類やお菓子、まんじゅうなど  
を売っていました。当時は弁  
当を持ってくる人もあまりな  
かつたので結構売れましたよ。

現在は趣味などはありま

すか  
吳にいたころに仲間たちと  
していいたビリヤードが大好き  
で、ちょうど健康福祉セン  
ターに台があつたので、黒坂  
でもしていた時期がありまし  
たが、今は俳句ですね。

俳句や川柳は、「わしにも  
できるのではないか」と思い  
立つて、90歳を過ぎてから始  
めました。

黒坂のまちについて  
人がどんどん少なくなつて  
寂しい限りですが、ここの人  
たちはお互いが顔見知りで暮  
らしやすい。そんないいところ  
のあるまちだと思います。

めたんです。作品を新聞に投  
稿して、時々新聞に載るのが  
励みになっています。



滝山公園の出店での長尾さん